

## 橋下大阪市長は脱原発論者なのか？ 中島岳志

原発反対を訴える人々の間で、橋下・大阪市長への期待が高まっている。橋下徹氏の政治姿勢や教育基本条例などの政策は支持できないが、原発問題については強いリーダーシップを発揮する政治家なので、戦略的に支持すべきと主張している。「原発再稼働反対という一点で大阪維新の会に投票しよう」という声も出てきている。

しかし、私は橋下氏が思想的に脱原発を貫く政治家であるとは、どうしても思えない。彼が批判しているのは、原発の存在そのものではなく、既得権益化した電力会社の体質と政府の政治決定プロセスのあり方である。

橋下氏は大飯原発の再稼働をめぐるツイッターで次のように述べている。

「原発の安全性については色々議論がある

が、原子力安全委員会が安全と言えどもあえずそれに従うと言うのもありでしょう。また原子力安全委員会が安全について疑問だと言っても、日本の電力不足を考えて政治が再稼働を決定することもありません。その政治決定について最後は国民が判断すればいい」(四月一日)

橋下氏が問題にしているのは、再稼働そのものの是非ではなく、再稼働の決定プロセスである。橋下氏は、原子力安全委による公式見解の提出が重要であると論じ、基本的にはその見解に従うべきであるが、日本の電力不足を考慮に入れて、政治が再稼働を決定することもあり得ると述べている。

これは「脱原発」の論理ではない。

さらに橋下氏は言う。「安全委がコメントを出せば、多くの国民は納得するだろう。

安全委が安全に関して不十分と言っても、政治が理由を説明して再稼働を決定すれば、それに賛成する人も多いただろう」「安全委が安全に関して不十分だと言ったのに、国のことを考えて政治が再稼働を決めれば、それは一つの政治判断で、国が責任を持ってやったと言われれば言い返せない」「今回の手順は絶対間違っている」(四月一日)

橋下氏の批判は、「原発再稼働」ではなく「手順」に還元される。手順を踏まえてさえいれば、政治判断で再稼働が進められても賛成する国民は多く、言い返すことができないというのだ。

橋下氏は理念の政治家ではない。レトリックの政治家だ。橋下氏のレトリックを理念と取り違えてはいけない。

国民の真贋を見分ける目が試されている。

# 風速計